

平成21年2月16日

平成20年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	少	やや少
	うどんこ病（注意報第6号）	多	多
	褐斑病	並	並
	菌核病	並	並
	灰色かび病	やや少	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多
	灰色かび病	並	やや多
	コナジラミ類	やや多	やや多
たまねぎ	べと病（注意報第4号）	多	多
	白色疫病（注意報第4号）	多	多
	ネギアザミウマ	並	並
いちご （本圃）	うどんこ病	並	並
	灰色かび病（注意報第5号）	多	多
	アブラムシ類	やや少	やや少
	ハダニ類	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査（11筆）の結果、発病葉率は0.8%（4.8%）、発生圃場率は18.2%（39.5%）であった。

イ 向こう一か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適な条件である。

2. うどんこ病

平成21年2月16日付病害虫発生予報注意報第6号による。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査（11筆）の結果、発病葉率は1.3%（2.4%）、発生圃場率は45.5%（29.1%）であった。

#### 4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率2.8%)。

#### 5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率9.4%)。

イ 向こう一か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適な条件である。

#### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.3%(0.6%)、発生圃場率は18.2%(15.7%)であった。

#### 7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.5%(1.6%)、発生圃場率は18.2%(25.5%)であった。

### トマト

#### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病株率は0.6%(前年0.6%、前々年0.1%)、発生圃場率は40.0%(前年25.0%、前々年25.0%)であった。

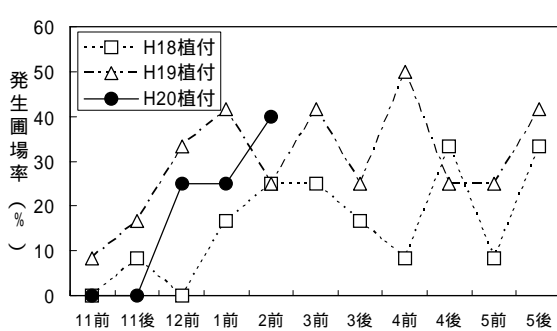


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

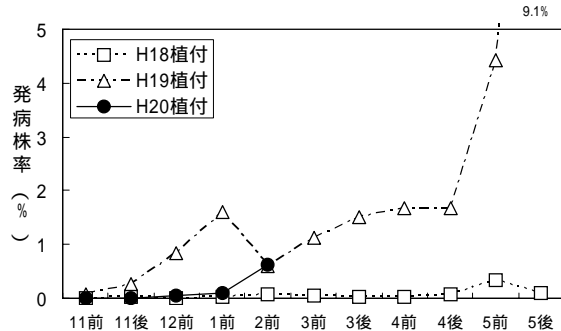


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

黄色粘着板等でコナジラミの密度を把握し、防除を徹底する。また、発病株の抜き取り及び適正処分を徹底する。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病果率0.0%(0.1%)、発生圃場率20.0%(10.7%)であった。

イ 向こう一か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適な条件である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多湿にならないよう圃場の排水に留意し、換気をこまめに行う。

イ 発病した果実や枯死葉は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外へ持ち出して適切に処分する。

ウ 耐性菌の出現を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生株率は1.4%(0.5%)、発生圃場率は30.0%(14.6%)であった。

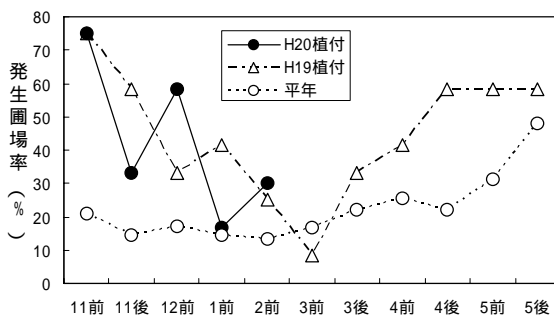


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率の推移

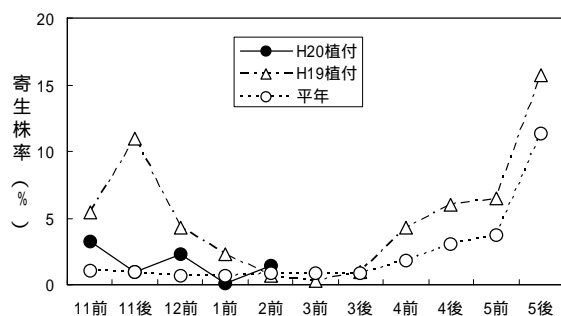


図 トマト コナジラミ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 黄化葉巻病のまん延を防ぐため、黄色粘着板等でコナジラミの密度を把握し、初期防除を徹底する。また、本虫の密度が高くなってからの防除は困難となるほか、着色異常症やすず病を引き起こすので注意する。

イ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

たまねぎ

1. ベと病

平成21年2月12日付病害虫発生予察注意報第4号による。

2. 白色疫病

平成21年2月12日付病害虫発生予察注意報第4号による。

### 3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は18.4%(16.8%)、発生圃場率は86.7%(63.3%)であった。

## いちご

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.5%(0.4%)、発生圃場率は3.7%(8.5%)、発病果率は0.1%(0.1%)であった。

### 2. 灰色かび病

平成21年2月12日付病害虫発生予察注意報第5号による。

### 3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.4%(1.0%)、発生圃場率は11.1%(9.7%)であった。

### 4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.0%(4.1%)、発生圃場率は33.3%(27.4%)であった。

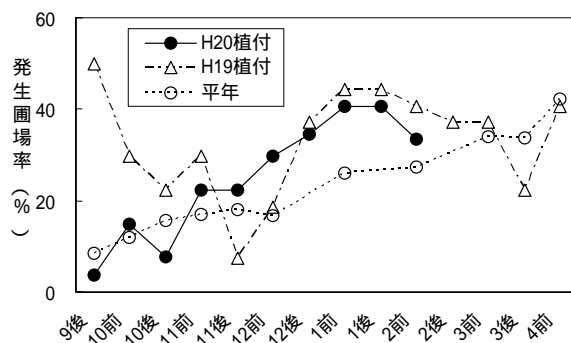


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移  
平年: H10 ~ H19の平均値(最大・小値除く)

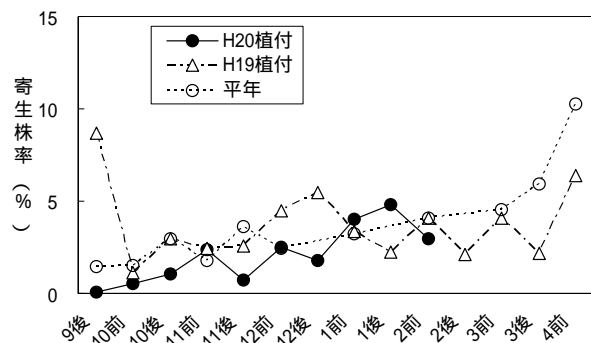


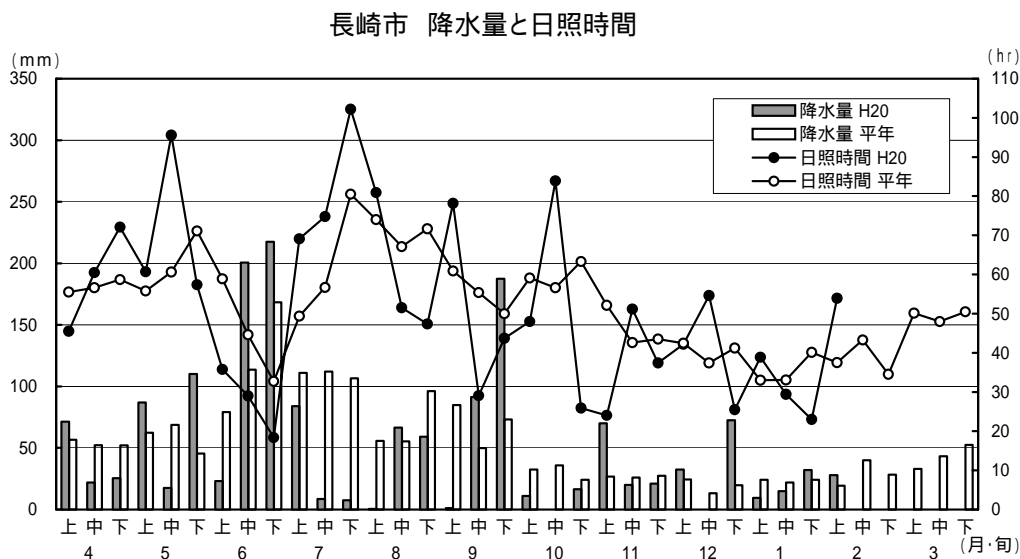
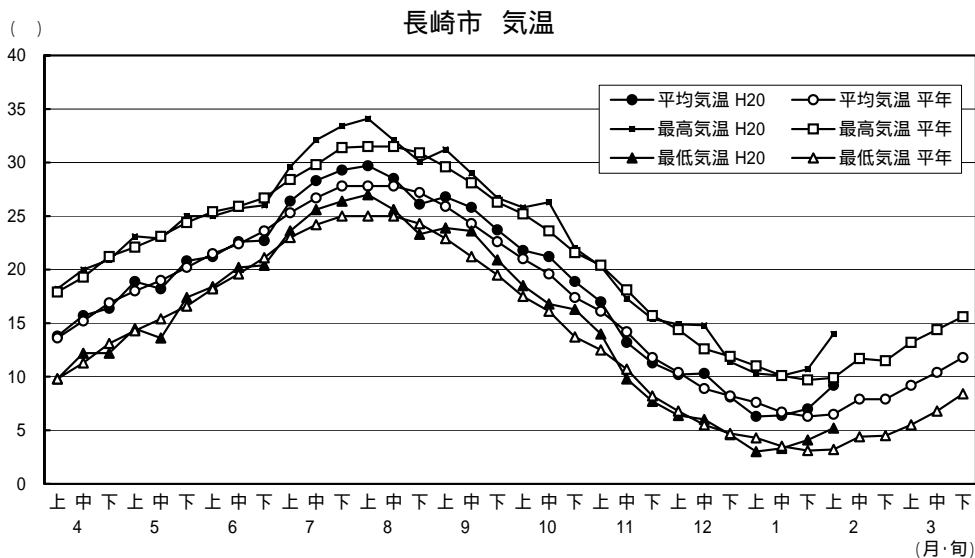
図 いちごハダニ類 寄生株率の推移  
平年: H10 ~ H19の平均値(最大・小値除く)

【参考】

気象 (平成21年2月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)  
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

予報対象地域：九州北部地域  
平成20年度の気象経過



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、農薬使用基準(適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数)及び使用上の注意事項をすべて、適正に使いましょう。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027